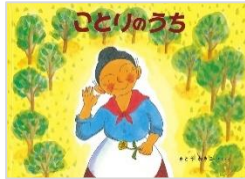


とり

ことりのうち

さとう わきこ／さく・え
福音館書店(2006)



ことりのうちをつくりました。しかし、おおきなとりがやってきました。おおきなとりのすをつくります。しばらくすると、おおごえでなきました。じつはかぞくとはぐれてしまったようです。おおきなとりは、ぶじにかぞくにあえるのでしょうか。

かるがもひなちゃん

おんなじおんなじ

かんちく たかこ／文
箕輪 義隆／絵
アリス館 (2024)



かるがものひなたちが、おいけにむかってあるいていると、てんとうむしや、あまがえるにであいました。それぞれ、かるがもとおんなじところがみつかります。さいごにであったのはかめです。かるがもとかめ、おんなじところはあるのでしょうか。

とりがないてるよ

ヨアル・ティーベリ／ぶん
アンナ・ベングトソン／え
オスターグレン 晴子／やく
福音館書店 (2014)



みみをすますときこえてくる、とりのこえ。ツピツピツとなっているのはシジュウカラ。カオオ～カオオオ～となくのはワタリガラス。では、フィフィ、フィフィ～となくのは、なんというとりでしょう。たくさんのとりのなきごえがたのしめるえほんです。

ことりのみずあび

マリサビーナ・ルッソ／作
なかがわ ちひろ／訳
あすなろ書房 (2015)



ことりはだいすきなみずあびにでかけたよ。でも、みずたまりはおおきすぎたり、ちいさすぎたり、ほかのことりでいっぱいだったり、ボール、こども、いぬにじゃまされたりとさんざんだった。しょんぼりしてかえるとちゅう、ことりはとてもいいものをみつけたよ。

したきりすずめ

まつたに みよこ／ぶん
むらかみ こういち／え
ポプラ社(1968)



むかし、じいと、ばあがおった。あるひ、じいがかわいがっていたすずめがいたずらをして、おこったばあは、すずめのしたをハサミできてしまった。じいは、にげていったすずめのことがしんばいで、さがしにいった。したきりすずめどんのおやどは、みつかるかな？

11ぴきのねことあほうどり

馬場 のぼる／著
こぐま社(1972)



11ぴきのねこが、コロッケのみせをはじめました。まいにちせっせとつくりまします。でも、うれのこるようになったので、ばんごはんはのこったコロッケ。きょうもあしたもコロッケばかり。とりのまるやきがたべたいなあ。そんなとき、いちわのあほうどりがやってきました。